

# 【 姫島村 】

## 平成30年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

### 1 調査結果の分析

#### 小学校：国語A

- 国語Aについては、県平均を17ポイント下回っているが、観点別で見ると「書く能力」が県平均と比べて14ポイントほど高い。中央値(7問/12問)以上の児童は9人中5人いるが2～4問と低い児童が3人いる。
- 具体的内容では、「相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて事例などを挙げながら筋道を立てて話す」ことが県平均と比べて24ポイント、「日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使う」ことが13ポイントほど低く、「文の中で正しく漢字を使う」も全体的に低いことから今後の課題としてあげられる。
- 聞き取る力、読み取る力、キーワードを見出す力の不足・情景描写(景色・状況・様子)などから、登場人物の心情を考えにくい。
- 話し手(来客や家族)によって、敬語を使う使わないがあることを理解していない児童が多い。
- 主語と述語の関係を理解できていない児童が多数いる。
- 基礎的・基本的な漢字の読み書きが身につけていない。
- 選択問題にもかかわらず、無回答率が高かったことから、問題文の理解ができなかった児童が多かったことが考えられる。

#### 小学校：国語B

- 国語Bについては、県平均を24ポイント下回っていて、活用問題が弱い傾向にある。観点別で見ても、すべて県平均を下回っている。特に「読む能力」は、26ポイント以上下回っている。中央値(2問/8問)以上の児童は、9人中6人であるが、1問と低い児童が3人もいる。
- 具体的内容では、「目的に応じて複数の本や文章などを選んで読む」ことが49ポイント、「推薦するためには、他のものと比較して書くことで、よさが伝わることを捉える」ことが37ポイント、「話し合いの参加者として、質問の意図を捉える」ことが27ポイント、「目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしなら読む」ことが24ポイントほど低く、今後の課題としてあげられる。
- 読解問題は何をどう問われているのか理解できていない。
- メモを基に必要な条件を満たしながら短作文を書くことができにくい。
- 偉人伝などの文章を時系列的に整理しながら、業績や功績を理解することが困難である。

## 2 具体的な改善方策

### 小学校：国語A

#### 《指導の重点》

- ・視写をしたり、短文を書かせたりする必要がある。
- ・尊敬語・謙譲語・丁寧語の使い方や常体と敬体の使い分けの学習を再度行う必要がある。
- ・基礎的・基本的な漢字の読み書きを徹底的に練習する必要がある。

#### 【学習時間】

- ・T2指導を行う。・週初めの導入段階で、漢字や言葉の定着をねらった取組を行う。(ミニテスト、フラッシュカード等)・単元の導入段階で、短文の「聴写」を行う。
- ・週に一度の短文暗唱、音読の時間をもつ。
- ・ICT機器の活用(書画カメラ、パソコンの活用、視聴覚教材の活用)

#### 【かっこタイム(朝のドリルタイム)】

- ・火曜日の朝25分間の充実をはかる。複数体制による実施。
- ・前半10分は前学年までの漢字の復習を行う。後半は読解のドリルを行う。

#### 【かっこチャレンジ(放課後指導)】

- ・週1回(木曜日の放課後)複数体制による実施。
- ・学習時間のつまずきの解消。(学習時間の「見取り」から、チェックシート、個人カルテの活用)

#### 【家庭学習】

- ・全校で取組を共有する。(火曜日：前学年までの漢字の復習 水曜日：視写 金曜日：言葉)
- ・家庭学習の手引きによる取組の共有化
- ・かっこチェックカードによる家庭での見直しをはかる。

### 小学校：国語B

#### 《指導の重点》

- ・問題のやり直しをしながら、何をどう問われているのかを整理する必要がある。
- ・メモを基に、必要な条件を満たしながら短作文を書く練習が必要である。
- ・偉人伝などの文章から、登場人物の人柄(特性)・業績や功績を端的にまとめる練習をする。

#### 【かっこタイム(朝のドリルタイム)】

- ・複数体制による実施。後半10分に読解のドリルを行う。

#### 【学習時間】

- ・様々な形態の文章を短時間で読み、内容を要約する練習を行う。
- ・条件を基に、短作文を書く活動を行う。

#### 【家庭学習】

- ・週末課題として、類似問題での練習を行う。

# 【 姫島村 】

## 平成30年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

### 1 調査結果の分析

#### 小学校：算数A

○算数Aについては、県平均を17ポイント、観点別でも「技能」25ポイント「知識・理解」14ポイント以上下回っている。9問中2～4問の正答数だった児童が3人いた。

具体的内容では、「折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることができる」「小数の除法の意味について理解している」「示された表現方法を基に、空間の中にあるものの位置を表現することができる」「1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができる」において29～43ポイント程低かった。

- ・問題文に線分図が示されているが、示す数値が数直線上のどこにあたるかが理解できていない児童が多い。
- ・少数のわり算の立式○をする問題において、選択問題だが無解答率が44.4%と高い。短い文章の読み取りを苦手とする。少数のわり算の立式が非常に苦手である。
- ・同じ面積同士の込み具合の比較を理解できていない児童もみられる。違う面積での込み具合を表す1あたりを示す式の意味を理解できていない児童が半数ほどみられた。
- ・ $180^\circ$ よりも大きい角を求める際、分度器の使い方や読み方を理解できていない児童が見られた。
- ・空間の中にあるものの位置を読み取る問題は、選択問題だが無解答率が22.2%と高い。縦・横・高さの起点が理解できない児童が多くみられた。
- ・円周・円周率・直径の関係を理解できていない児童が多く見られた。

#### 小学校：算数B

○算数Bについては、県平均を33ポイント下回っていて、活用問題が弱い傾向にある。正答数0問の児童が3人だった。

観点別でも、「数学的な考え方」「数量や図形についての知識・理解」共に20～35ポイント程度下回っている。

具体的内容では、「示された考えを解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を表現方法を適用して記述できる」「示された情報を解釈し、条件に合う時間を求めることができる」「示された考えを解釈し、条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表現することができる」「折り紙の輪の色の規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を」判断することができる」ことが非常に低く、今後の課題としてあげられる。

- ・正三角形と正六角形が敷き詰められた模様の図形の敷き詰められ方や角の組み合わせ方が理解できていない児童が多かった。
- ・メモ1に書かれた条件と数値、メモ2に書かれた条件と数値を手掛かりに、何を分析しているのか、言葉で書く問題に正答できた児童はいなかった。
- ・例を基にして、条件を同じにして計算していく問題の意味理解ができていない。正答した児童はとも少なかつた。

## 2 具体的な改善方策

### 小学校：算数A

#### 《指導の重点》

- ・数量関係を簡単な図に表す練習を重ねることで、立式できるようにする。
- ・少数のわり算の立式について、同じ系統の短い文章問題を集中的に取り組ませ、立式につながるポイントを押さえる。
- ・分度器やコンパス等の使い方を個別に指導していく必要がある。
- ・空間認識を高めるため、具体物や半具体物の操作を取り入れた活動を算数の時間だけでなく、日常的に取り入れていく。
- ・円周・直径・円周率の関係を復習し、言葉の式・比例の関係をおさえる。
- ・各教科においてグラフを活用した様々な資料を丹念に読み解いていく時間を設定する。

#### 【学習時間】

- ・T2指導・習熟度別指導を行う。
- ・週初めの導入段階で、計算や知識の定着をねらった取組を行う。(ミニテスト、フラッシュカード等)
- ・単元の復習にeライブラリを活用し定着をはかる。
- ・ICT機器の活用(書画カメラ、パソコンの活用、視聴覚教材の活用)

#### 【かっこタイム(朝のドリルタイム)】

- ・木曜日の朝25分間の充実をはかる。複数体制による実施。前半10分は計算の復習を行う。

#### 【かっこチャレンジ(放課後指導)】

- ・週1回(木曜日の放課後)複数体制による実施。
- ・学習時間のつまずきの解消。(学習時間の「見取り」から、チェックシート、個人カルテの活用)

#### 【家庭学習】

- ・全校で取組を共有する。(火曜日：前学年までの漢字の復習 水曜日：視写 金曜日：言葉)
- ・家庭学習の手引きによる取組の共有化
- ・かっこチェックカードによる家庭での見直しをはかる。

### 小学校：算数B

#### 《指導の重点》

- ・問題のやり直しをしながら、何をどう問われているのか整理し問題の意味理解をする必要がある。
- ・再度問題の説明と類似の問題による考え方を学習する必要がある。

#### 【かっこタイム(朝のドリルタイム)】

- ・木曜日、複数体制による実施。後半10分に読解のドリルを行う。

#### 【学習時間】

- ・活用問題を扱う時間を設定し弱点補充を行う。

#### 【家庭学習】

- ・週末課題として、類似問題での練習を行う。

# 【 姫島村 】

## 平成30年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：理科）

### 1 調査結果の分析

小学校：理科

〇県ポイントを19ポイント下回っている。観点別にみても「自然現象についての知識理解」が44ポイント、「観察実験の技能」が16ポイント下回っている。16問中3～4問の正答数だった児童が3人いた。

具体的な内容では、「実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できる」は一人も正解者がいなかった。「物を水に溶かした全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用できる」「堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解している」「実験結果から電流の流れ方について、より妥当な考えに改善できる」において、29～55ポイント程低く、今後の課題としてあげられる。

・腕が曲がる仕組みを筋肉の伸び縮みで考えることができていない児童が多く、筋肉の動きと関節の連動を再確認する必要がある。関節という言葉を知らない児童も見られた。日常生活と関連させながら、学習を進めていく必要がある。

・堆積作用と運搬作用を混同している。また、水量が増えると浸食作用が大きくなり、溝の内側・外側関係なく浸食されることを理解できていない児童が多い。上流の降水量と川の増水のことをよく理解できていない傾向にある。実験や観察のまとめやふりかえりを充実させた上で、応用問題にも対応していく必要がある。

・電気の流れる仕組み、ろ過の適切な仕方を理解できていない児童が多い。実験の結果が知識として身につけていない。実験後の復習やふりかえりが十分できていないことが考えられる。

### 2 具体的な改善方策

小学校：理科

#### 【学習時間】

- ・観察・実験といった体験活動の後のまとめ・ふりかえりの活動の重視。
- ・単元末に復習の時間を設定し、デジタル教材の活用（e-ライブラリ、NHKfor school）
- ・週1回（木曜日の放課後）複数体制による実施。
- ・学習時間のつまずきの解消。（学習時間の「見取り」から、チェックシート、個人カルテの活用）

#### 【家庭学習】

- ・全校で取組を共有する。（金曜日：基礎基本を中心とした復習）

# 【 姫島村 】

## 平成30年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

### 1 児童質問紙の分析

#### 【自己肯定感に関して】

●自分に良いところがあるかの問いに対して、当てはまると回答した児童は、11.1%（1名）で、県や全国の平均40%前後に比べ低いことがわかる。明確な自己肯定感の確立が課題。

#### 【先生に関して】

◎良いところを認めてくれるかの問いに対して、当てはまると回答した児童は、66.7%（6名）で、県や全国の42~44%に比べ、高いことがわかる。先生を肯定的にとらえている児童が多いといえる。

#### 【将来の夢に関して】

◎将来の夢や目標を持っているかの問いに対して、当てはまる・どちらかという当てはまると回答した児童は100%だった。

#### 【家庭学習に関して】

●平日の学習時間に関して、2時間以上する児童は0%（県27.3%・全国29.3%）、30分以上1時間より少ないと回答した児童が55.6%と圧倒的に多いことがわかる。家庭での学習時間の確保ができていないこと、学校からの宿題の質と量の未検討が原因だと考えられる。その他に、保護者自身が家庭学習の重要性を理解できていないことも大きな原因だと考えられる。

#### 【家庭での読書に関して】

●平日の読書の時間に関しての問いに対して、10分より少ない22.2%（2名）、全くしない33.3%（3名）計55.5%の児童が読書をほとんどしないことあわかる。（全国は計33.6%、県は計33.6%）

#### 【放課後の過ごし方に関して】

●平日、スポーツをして過ごす児童88.9%（社会体育がない日がある）、テレビを見て過ごすなどは100%であった。学習や読書をする回答した児童は44.4%（4名）で、県や全国の平均65%前後と比べると低いことがわかる。家庭での過ごし方の見直しが必要である。

#### 【週末の過ごし方に関して】

◎学習や読書以外にスポーツに参加する児童は77.8%（7名）で、全国の44%前後に比べて高いことがわかる。また、家族と過ごす回答した児童は100%、友達と過ごす88.9%で、県や全国よりも20%高かった。若干気になるのは、社会体育の練習や試合等に家族も参加したり、島外に買い物に出かけたりと、家で家族と体験活動をして過ごす児童が少ないことが挙げられる。

#### 【家族との会話に関して】

◎家の人に学校でのことを話すかの問いに対して、している・どちらかといえばしていると回答した児童は100%で、県や全国の80%強に比べて高いことがわかる。

#### 【地域への参画に関して】

◎地域行事に参加しているかの問いに対して、当てはまる、どちらかという当てはまると回答した児童は77.8%で、県や全国の平均65%前後に比べると高い。盆踊りを含め、村の行事への参加が多いことが要因である。

### 【地域ボランティアへの参画に関して】

◎参加したことがあると回答した児童は 77.8%で、県や全国の 36%前後と比べると非常に高いことがわかる。また、残りの児童がわからないと回答していることから、海岸清掃やきらきら大作戦等がボランティア活動に当たることを認識していなかったと推察される。

### 【地域の大人からの指導に関して】

◎地域の大人からスポーツや学習を教えてもらう機会はあるかの問いに対して、100%の児童があると回答している。社会体育やかっこ塾が影響していると考えられる。

### 【新聞に関して】

▲新聞を読んでいるかの問いには、毎日読む・週に 1~3 回読む児童は 0%だった。県や全国は 20%であり、姫島の特性として、新聞をとっていない家庭が多いことが要因であると考えられる。また、村販売店の情報として、新聞を購読しているのは、年齢層が高い家庭で、若年層家庭はネットなどで閲覧していると思われる。

### 【ニュースに関して】

▲ネットやテレビでニュースを見るかの問いに対し、よく見ると回答した児童は 44.5%で、県や全国の平均 56%前後と比べると 10%近く低いことがわかる。

## 2 児童質問紙の調査結果をふまえての具体的な取組

### (1) 自己肯定感を高める学級づくり

- ・「認め合い合い」「支え合える」学級集団活動
- ・生徒指導三機能「自己決定の場」「自己存在感」「共感的人間関係」を生かした授業展開
- ・特別活動において、達成感を感じられる成功体験の積み重ね

### (2) 家庭学習、家庭読書のすすめ

- ・家庭学習の手引きや学校からのお便りによる家庭の意識の高揚を図る。
- ・曜日ごとの家庭学習の内容を全校で統一し、家庭での声かけなどによる協力を図る。
- ・取組の実態や傾向を学級通信等で保護者に知らせる

### (3) 基本的な生活習慣の定着

- ・「モーニング読書」「無言清掃」の徹底により、落ち着いた集団生活の定着を図る。
- ・「かっこチェックカード」の取組により、家庭に、「早寝」「早起き」「朝ご飯」の意識を持たせ、見直しを図る。

# 平成30年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

## 1 調査結果の概要

### 小学校：学校質問紙

#### ○教科指導

個に応じた指導については、算数の授業の中で習熟度別別・少人数・T T指導を計画していたが、きめ細かな指導・支援が十分行われているとは言えない。

国語の指導法については、基礎的・基本的な事項を定着させる授業や補足的な学習の指導に力を入れてきたが、継続した効果的な指導が十分ではなく、成果に結びついていない。また、発展的な学習や目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業については不十分なところがあった。

算数の指導法については、補足的な学習や反復練習をする授業に力を入れてきたが、十分な成果が得られず指導の質の向上が求められる。また、実生活における事象との関連をはかった授業を十分行うことはできていない。

#### ○学力向上

児童の学習状況については、学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて話を聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守る）の指導が徹底できてなく、落ち着いた学習時間の状況ができていない。また、「考えを深めたり、広げたりする」「資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発言や発表を行う」ことが苦手な傾向にある。

学力向上に向けた取り組み・指導方法については、「新大分スタンダード」にそった授業展開の確立を図るためにさまざまな取り組みや指導法の工夫がなされていることがわかる。しかし、本校が校内研修で進める児童の学びに向かう力の育成をねらった話し合い活動の実践は十分ではなく、十分な成果が得られていない。

家庭学習については、習慣化を図るために教職員で共通理解を図り、児童や保護者に対して働きかけを行ってきている。全校で統一した取組を継続していく必要がある。

#### ○学校経営

地域人材・施設の活用においては、保護者や地域の人々の協力を得ながら子どもたちの育ちを支援する取り組みを行ってきている。しかし、ボランティア等による授業サポートや離島ということもあり博物館や科学館などの施設を利用した学習は難しい。

教育研修・教職員の取り組みについては、課題を明確にし、学校教育目標・重点目標の達成に向け全教職員で組織的に研修や授業改善を行ってきている。しかし、研修時間の確保が難しく、話し合い活動に関する研修がまだまだ不十分と言える。

## 2 姫島村の学校質問紙の調査結果をふまえて

- 学力向上に向けた人的・物的支援
- 学校・保護者・地域とが一体となった子育て支援体制の充実
- 姫小スタンダードにそった問題解決学習やアクティブラーニングの推進
- 小中連携の推進と強化
- 教職員の授業力向上に向けた研修時間の確保と研修内容の充実

## 1 調査結果の分析

○現状分析(成果)

●現状分析(課題)

◎原因分析

○国語Aの「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域では、19項目中7項目で全国を上回った。国語Bの「文章の構成や展開について自分の考えを持つ」「登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てる」では全国を上回った。

●現状分析(課題)

「話すこと聞くこと」では「話し合いの話題や方向を捉え、的確に話す」「全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す」、「書くこと」では「伝えたい内容が十分に表されているかを検討する」「目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く」、「読むこと」では、「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する」「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」「目的に応じて文章を読む」の点で課題が大きい。

◎「言語についての知識・理解・技能」は平均では全国を下回ったものの、全国を上回る項目も多かった。家庭学習と連携した小テストに対し真面目に取り組んできた成果だと思われる。しかし、「話す・聞く」「書く」「読む」については、「丹念に叙述を追い、そこに書かれている言葉から情報を読み取る」という読み方の練習やスキルがまだ不足している。順序よく詳細に読んでいくという読み方だけではなく、「全体を俯瞰して読む」「必要に応じて部分読みをする」などの自在な読み方の練習の場の設定が必要であり、それが「書く」力の向上にもつながっていくと考えられる。

## 2 具体的な改善方策

○「読む」学習において、叙述を正確に追い、そこから情報を読み取る練習となるような学習活動を設定する。また「読む」活動と関連づけた「書く」活動の取り組みを継続していく。

○放課後補充学習（やはずタイム）において「整理と研究」のテキストを活用し、基礎基本の定着を図る。

○週末課題において活用問題を意識した問題を出し、授業で解説する。

○授業で学習したことの振り返りと定着ができるような課題や漢字・語句のドリル的な課題を出す。

○様々な力を下支えするものとして活字に親しむことが必要であるので、学校図書館を活用し、活字に親しませる指導をする。生徒自ら多様な図書資料を手取るようにするため、学校図書館の整備等、学習環境の充実を図る。

# 平成30年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

## 1 調査結果の分析

- 現状分析(成果)
- 現状分析(課題)
- ◎原因分析

○数学への関心等において、「数学ができるようになりたいか」「諦めずにいろいろな方法を考えるか」という問いに対して、肯定的な回答をする生徒が多い。

- 数学Aにおいて県平均とは－15の差があった。技能では－12.9、知識・理解では－23.8の差があった。
- 数学Aにおいて方程式に関して、移項すると符号がどうなるか、移項の仕方が理解できていない。特に、文字を含む方程式が弱い。図形に関して、立体的に見たりすることに苦手と感じている。証明問題では、なぜ同じ角度になるかという理由を理解できていない。
- 数学Bについて県平均とは－25の差があった。数学的な考え方では－23.6、技能では－26.3の差があった。
- 数学Bについて問題を理解できていない。また、表やグラフの見方が分からず、答えが導き出せない傾向がある。

◎全体を通して全国平均・県平均に達していない。知識・理解では、用語やその用語の意味を理解できていないこと、技能では基本的な性質が理解できていないことが低い原因になっていると考えられる。また、空間図形に関しても用語の意味を理解していないように感じる。用語を覚えるだけでなく、それが何を表しているのかをしっかりと理解させるとともに、基礎・基本の定着が必要である。

◎文章問題になると更に苦手意識を感じている。文章を読むということに慣れていないと思われる。そのため、理解できている内容であっても文章が長いのが故に間違えたり、問いかけ方が違うが故に間違っていたりしている。今後、文章を読むことに慣れていく必要がある。

## 2 具体的な改善方策

○教科書の内容もあるが、朝自習等で基礎的な問題に取り組ませていく。

○放課後補充学習（やはずタイム）では、1、2年の基本問題（計算）を中心に取り組む。また、放課後補充学習（やはずタイム）以外にも放課課後の時間を利用し、各自の課題解決に向けて個に応じた指導を行う。

○週末課題において、基礎的な問題を計画的に繰り返し取り組む。

○家庭学習ノートで間違えた問題のやり直しについて、個別指導を行う。

○個に応じた問題（苦手としている単元のプリント）を週末課題だけでなく、日常的に継続して取り組む。

# 平成30年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

## 1 調査結果の概要

### 生徒質問紙

#### ○学習に対する関心・意欲・態度

数学の学習については、「好きである」「よく分かる」と回答している生徒は、全国・県平均値より高く、習熟度別授業による個に応じた指導の成果が表れている。しかし、平均正答率では全国・県平均値を下回っており、授業および補充学習・家庭学習等を活用した学習内容の定着が課題である。

理科の学習においては、「観察や実験を行うことが好きである」と回答している生徒は、全国・県平均値より高く、授業において適切に観察や実験を行った成果である。また、「理科の授業の内容がよく分かる」と回答した生徒は、全国・県平均値を30ポイント近く上回っており、数学と同様に学習内容の定着が課題である。

「ふるさと科」（総合的な学習の時間）としての3年間の取組（「ふるさとを知る」「ふるさとから学ぶ」「将来のふるさとを考える」）が、地域・社会への関心の高さにつながっており、全国・県平均値を上回っている。

#### ○規範意識・自尊感情

規範意識については、「学校の規則を守る」「いじめはどんな理由があってもいけない」「人の役に立つ人間になりたい」と肯定的に回答した生徒は、全国・県平均値を下回っており、学校生活を通して規範意識を高める取組が必要である。

自尊感情については、「自分にはよいところがある」「将来の目標や夢を持っている」と回答した生徒は、全国・県に比べて高い。

#### ○学習の基盤となる活動・習慣

生活習慣については、「朝食を毎日食べていますか」という質問に対して肯定的回答をした生徒は100%であったが、就寝時間が全国・県に比べて不規則な傾向にある。

学習習慣については、「家で宿題をする」「計画的に学習に取り組む」生徒は全国・県を上回っているが、予習・復習をする生徒の割合は、全国・県に比べると低い。

## 2 姫島村の児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

- ・新大分スタンダードの視点および授業改善の5点セットにそった授業改善推進
- ・放課後や家庭学習を活用した補充学習の工夫・改善
- ・家庭学習習慣定着のため、家庭と連携した学習に向かう環境整備の推進
- ・進路学習と連動した学習意欲向上の取組の推進
- ・基本的な生活習慣確立に向けた取組の工夫・改善
- ・規範意識を高めるための支援や場づくり

# 平成30年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

## 1 調査結果の概要

### 中学校：学校質問紙

#### ○教科指導

個に応じた指導については、特に数学及び英語の授業の中で習熟度別・少人数指導を十分に行ってきた。

国語科の指導法においては、補充的・発展的な学習の指導や、目的や相手に応じて話したり、聞いたりする授業、書く習慣を付ける授業に力を入れている。様々な文章を読む習慣を付ける授業については、朝読書指導や図書室の活用と関連付け指導している。

数学科の指導法においては、実生活における事象との関連を図った授業がやや不十分ではあったが、計算問題等の反復練習等補充的な学習の指導に力を入れてきた。そのため、発展的な問題の学習がやや不十分であった。

理科の学習においては、観察・実験を活用し好奇心が喚起されるよう工夫されている。補充的・発展的な学習の指導にも力を入れている。

#### ○学力向上

生徒の状況については、私語をしないなど授業中の学習規律はほぼ整っており、グループ活動等も円滑に行えるが、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができているとは言い難い。

学力向上に向けた取組・指導方法については、「新大分スタンダード」に基づき、「1時間完結型」授業や「板書の構造化」「習熟の程度に応じた指導」に係る取組に工夫をしてきたことが分かるが、「生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開」の工夫が更に求められる。図書館資料を活用した計画的な授業も不十分であった。

家庭学習については、各学年の目標学習時間を設定し生徒や保護者に働きかけを行ってきたが、家庭学習の内容や与え方、その評価・指導等に改善の余地がある。「姫島っ子 家庭学習のすすめ」をより効果的に活用させる必要がある。また、家庭学習時間確保の阻害要因であるスマホやゲームなどの使用時間の決まりを徹底させる必要がある。

#### ○学校経営

地域人材・施設の活用においては、職場体験学習や地域の人と関わりながら地域を学ぶ学習、地域住民やPTAの方々の協力等の分野では進展が見られる。地域住民等のボランティア等による学校の授業サポートはさほど行えなかったが、水曜日・土曜日等を利用した「協育」ネットワーク連携促進事業に係る取組は十分に実施できた。

## 2 姫島村の学校質問紙調査の結果をふまえて

- 「新大分スタンダード」に基づく、生徒指導の3機能を意識した問題解決的な授業展開の工夫と個別指導
- 保護者と連携した家庭学習の充実に係る取組強化
- 小学校と連携したESDの視点からの教育活動の推進